令和８年１０月１９日

前期学校評価アンケート　結果と分析

京都市立北総合支援学校中央分校

令和8年度 前期学校評価アンケート にご協力いただき、ありがとうございました

◇　実施期間　令和8年9月7日（月）～9月15日（火）

◇　対　　象　児童生徒、保護者、教職員

◇　方　　法　児童生徒、保護者は紙媒体もしくはアンケートフォームより回答。教職員はアンケートフォームより回答

◇　回　答　率

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="4">児童生徒</td><td colspan="3">保護者</td><td rowspan="2">教職員</td></tr>
<tr><td>小学部</td><td>中学部</td><td>高等部</td><td></td><td>小学部</td><td>中学部</td><td>高等部</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象者数
（人）</td><td>37</td><td>25</td><td>36</td><td></td><td>37</td><td>25</td><td>36</td><td rowspan="2">82</td></tr>
<tr><td colspan="4">98</td><td colspan="3">98（家庭数として97）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">回答者数
（人）</td><td>8</td><td>7</td><td>21</td><td></td><td colspan="3" rowspan="2">52</td><td rowspan="2">76</td></tr>
<tr><td colspan="4">36</td></tr>
<tr><td rowspan="2">回答率
（%）</td><td>21.6%</td><td>28.0%</td><td>58.3%</td><td></td><td colspan="3" rowspan="2">53.6%</td><td rowspan="2">92.7%</td></tr>
<tr><td colspan="4">36.7%</td></tr>
</table>

◇目的◇

本アンケートは、学校教育目標「自分から 自分で 自分らしく みんなとともに 学び合う子どもの育成」に基づき、具体化された①「めざす学校像」、②「めざす教職員像」について保護者・教職員を対象に、③「めざす子ども像」について児童生徒を対象に実施し、本校の現状と課題を把握することを目的としています。

◇分析・表示方法◇

5つの選択肢（できている、だいたいできている、あまりできていない、できていない、わからない　※教職員は「わからない」 以外の4つの選択肢） の総数に対して、「できている」と「だいたいできている」を合わせた“肯定的な回答”の数値を%で表します。成果や課題を把握しやすいように、90%以上を水色（良い評価）、80%未満は赤色（良くない評価）で表示し、保護者・教職員間で比較したり、肯定的な回答が高い要因や低い原因を分析したりします。

◇アンケート結果◇

【対象：保護者・教職員】

めざす学校・教職員像を達成するための重点項目	重点項目に合わせた設問	保護者	教職員
1.地域社会と協働・連携する社会に開かれた教育課程の充実	1.地域との連携を活かした教育活動（体験活動・探究学習など）が行われている	96.2%	90.8%
	2.保護者や地域社会との情報共有（広報活動・参観など）が適切に行われている	90.4%	97.3%
	3.地域の強みや特色を活かした学びが、児童生徒の主体性を育んでいる	84.6%	93.4%
	4.地域との交流や協働活動が、児童生徒の社会性の育成につながっている	76.9%	97.4%
2.未来社会を見据え、子どもの生きる力を育む授業の創造	5.主体的で対話的で深い学びを意識した授業が行われている	90.4%	89.5%
	6.ICT を活用した効果的な授業が実施されている	80.8%	94.7%
	7.子ども一人ひとりの可能性を広げる学習活動が工夫されている	92.4%	98.7%
	8.現代的課題（防災・感染症など）への対応を含む教育活動が充実している	80.8%	88.2%
3.一人ひとりが持続可能な社会の担い手として、共生社会の形成に向けて取り組む	9.教職員が協力し合い、働きがいを感じられる職場づくりが進められている	57.7%	97.4%
	10.教職員が人権意識を高く持ち、多様な価値観を認め合う姿勢を持っている	75.0%	94.8%
	11.保護者・福祉・医療・行政などとの連携体制が適切に構築されている	73.1%	96.0%
	12.地域支援と校内支援の一体化による支援体制が機能している	55.8%	93.4%

◇保護者・教職員の分析結果◇

重点項目1「地域社会と協働・連携する社会に開かれた教育課程の充実」の各設問ともに肯定的回答の数値が高くなっています。設問1～3の数値が高いことからもわかるように、日ごろから地域との連携を活かし強みや特色を活かした学習を積極的に取り入れることで、児童生徒は、地域の施設（商店、公園、消防署、図書館等）を利用したり、地域の方々や施設の職員の方々と接したりすることで、興味関心を広げたり、自らコミュニケーションをとろうとしたりする姿や、地域の方々とともに笑顔でかかわったりする姿につながっています。

しかし、設問4「地域との交流や協働活動が、児童生徒の社会性の育成につながっている」では、保護者の肯定的回答の数値が他に比べると低くなっています。今後も引き続き、「何のために」学習しているのかを児童生徒が実感し、学校周辺の地域の強みや特色を活かしながら、地域の様々な施設に興味を持つ姿や、様々な人たちと関わる姿や、関わることの楽しさを感じる姿を引き出し、生活に必要な力を育んでいきたいと考えます。また、学習したことが学校以外の他の場面や家庭・地域で自ら行動できるように、日ごろから保護者と共有・連携していきたいと考えます。

重要項目2「未来社会を見据え、子どもの生きる力を育む授業の創造」の各設問ともに肯定的回答の数値が80%以上となっています。日ごろから、各学部ともに様々な学習の中で、児童生徒がクラスメイトや学年集団、学部の仲間等を意識できるよう、支援や工夫をしています。また、タブレット端末やスイッチ類等を、児童生徒の実態や

状況に応じて活用することで、効果的な学びにつながっています。そのために、友だちや仲間と一緒に取り組んだり、協力したりする姿や、ICTを活用しコミュニケーションをとる姿、自ら学びを深める姿が見られるようになってきました。

設問8「現代的課題（防災・感染症など）への対応を含む教育活動が充実している」では、前期には地震を想定した避難訓練を実施しました。事前学習で避難の仕方や避難時に大切なこと等について学んだこともあり、多くの児童生徒が各教室や学習場所から落ち着いて避難することができました。また、毎月「ほけんだより」を発行し、「熱中症」「食中毒」「睡眠リズム」等について意識したり、正しい知識を身に付けたりできるようにしてきました。今後、インフルエンザやコロナウイルス感染症等が流行する時期になります。日ごろから、活動後の手洗いに取り組んでいますが、それに加えて咳エチケットの大切さや、健康的な生活に必要な知識や習慣等について、児童生徒の発達段階や生活年齢に応じた学習を充実させていきたいと思います。学校以外の家庭・地域等でも安心安全に行動し、自分を守る力を身に付けられるように家庭とも情報共有し取り組んでいきたいと思います。

重要項目3「一人ひとりが持続可能な社会の担い手として、共生社会の形成に向けて取り組む」の設問9．10．11．12ともに教職員の肯定的回答の数値は90%以上となっているのに対して、保護者の肯定的回答の数値は低くなり、結果に大きな差が見られました。また、保護者の「わからない」の回答の数値も高く、設問9が44．2%、設問10が25．0%、設問11が23．1%．設問12が44．2%となり、他の設問と比較すると高い数値となり、課題の残る結果となりました。「わからない」の数値が高いことを真摯に受け止め、「学校だより」「学校ホームページ」や個別懇談会等の様々なツールや機会を通して発信をし、より多くの保護者や地域の方々に、本校の取組について知っていただく必要があると考えます。

設問9「教職員が協力し合い、働きがいを感じられる職場づくりが進められている」では、日ごろから、学年・学部、各部署の教職員がコミュニケーションをとり、協力しながら業務を遂行し、児童生徒の目標を達成するために、そして生きる力を育むために取り組んでいます。今後も、様々な世代の教職員が日頃の児童生徒の様子や、授業づくり、事務作業等について、報告・連絡・相談しやすい風通しのよい職場づくりに努めていきたいと考えます。

設問10「教職員が人権意識を高く持ち、多様な価値観を認め合う姿勢を持っている」では、児童生徒に対して、また教職員同士、人権を尊重した言葉づかいや態度を意識しながら接しています。さらに、他の地域制の総合支援学校に比べると、規模が小さいという利点を生かし、学校行事や「縦割り活動」を通して、全教職員が学部・学年に関係なく、全ての児童生徒に関わり、寄り添うという意識を持ち、指導・支援を行なっています。今後も、児童生徒一人一人の多様な価値観を認め合いながら、個に応じた適切な配慮や支援を充実させ、誰もが安心して通える学校にしていきたいと思います。

設問11「保護者・福祉・医療・行政などとの連携体制が適切に構築されている」では、日ごろから担任や学年を中心に保護者と相談・連携をし、また、必要に応じて児童相談所・相談支援事業所や福祉タクシー事業所等の福祉機関、学校医や児童生徒の主治医等の医療機関と相談・連携をしながら、児童生徒が学校生活や家庭生活を安心・充実したものにできるよう努めています。今後も、保護者や関係機関と必要に応じて連携をとることで、児童生徒自身や家庭の困り等の状況や課題に対して、より多くの機関や複数の視点で迅速な把握と対応できる適切な支援体制を構築していきたいと思います。

設問12「地域支援と校内支援の一体化による支援体制が機能している」では、本校の育支援センターの教職員が、地域の小・中学校や児童生徒の保護者を対象に、総合支援学校での経験や知識を生かして、教育相談や学校見学を行なったり、地域の小・中学校等を訪問し、学習などに「困り」のある児童生徒の様子を観察した上で、地域の教員とともに、一人一人に応じた支援方法について考えたりしています。

さらに、地域の学校の教職員向けに研修会を行い、人材育成を図るとともに、障害理解と特別支援教育に係る情報発信などもしています。このような相談業務や研修会等を通して、適切な指導・支援のもと児童生徒の「困り」が少しでも軽減できるように、地域の学校と連携をしています。今後も、地域の学校の児童生徒が、必要に応じて適切な教育や支援が受けられるよう、本校の専門性を生かしながら、地域の学校の教職員の専門性向上につながる取組を充実させていきたいと思います。

【対象：児童生徒】

めざす子ども像	めざす子ども像に合わせた設問	児童生徒
1.健やかな身体をつくる子ども	1.学校で身体を動かす活動に楽しく参加している	94.5%
	2.食事や生活のリズムを大切にしている	88.8%
	3.健康や安全に気をつけて行動している	91.6%
2.自分の思いをのびのびと表現する子ども	4.自分の考えや気持ちを言葉や行動で伝えている	91.6%
	5.絵や作文、音楽や身体の動きなどで自分らしく表現している	94.4%
	6.自分の思いを大切にしながら、友だちの話も聞いている	88.8%
3.他者を尊重し、かかわり合いながら学ぶ子ども	7.友だちの気持ちを考えて行動している	86.0%
	8.困っている人に声をかけたり、助けたりしている	75.0%
	9.みんなで協力して活動することができている。	88.8%
4.自分のできることを発揮する子ども	10.自分の得意なことや好きなことをがんばっている	94.4%
	11.授業や活動で、自分の役割をしっかり果たしている	97.3%
	12.新しいことにもチャレンジしようとしている	83.3%

◇児童生徒の分析結果◇

回答率は36.7%ではあるものの、アンケート結果からは、11の設問で肯定的回答の数値が80%以上を超えており、全体的に児童生徒が学校生活の様々な学習や活動に前向きな気持ちや姿勢で取り組み、自己肯定感や自己有用感が育まれている様子が伺えます。

めざす子ども像1「健やかな身体をつくる子ども」の設問1～3では、肯定的回答の数値が90%前後と高くなりました。各学部で毎朝、体育館やランチルームなどでダンスや体操をしたり、グラウンドでランニングをしたりすることで、身体を動かす楽しさや喜びを感じるとともに、体力や筋力の向上など健康について意識する機会となっています。また、中学部・高等部のライフスタディでは、自身の生活習慣や生活リズムについて考えたり、食生活について学んだりしてることが、成果として表れているものと考えられます。

めざす子ども像2「自分の思いをのびのびと表現する子ども」の設問4～6では、肯定的回答の数値が90%前後と高くなりました。自分の考えや気持ちを言葉だけではなく、表情やジェスチャー・行動で表現する姿が多くの場面で見受けられます。「好き・嫌い」を素直に表現することはとても大切なことであり、学習や活動の中で、その気持ちを適切に表現することを学んでいます。また、タブレット端末のアプリやスイッチなどを活用することで、思いや気持ちを伝える楽しさを実感していることも伺えます。各学部のライフスタディでは、絵を描くことやものを作ることで、自分らしくのびのびと表現する姿を引き出すことにつながっています。

めざす子ども像3「他者を尊重し、かかわり合いながら学ぶ子ども」の設問8「困っている人に声をかけたり、助けたりしている」では、数値が他に比べると少し低くなっています。例えば、早退や欠席したクラスメイトや友だちを気遣う姿や、ゆっくりと歩く年下の児童生徒の横を、ぶつからないように慎重に通り過ぎる姿など相手のことを考え、表現している様子が多くの場面で見受けられます。しかし、実際に「声をかけたり、助けたり」することに対して、どのように行動すればいいのか、戸惑ったり迷ったりしていることが伺えます。今後は、クラススタディやライフスタディで、「お年寄り」や「困っている人」等への対処の仕方を知ったり考えたりすることで、相手を思いやる気持ちや、行動する姿を育んでいきたいと考えます。

めざす子ども像4「自分のできることを発揮する子ども」の設問10～12では、肯定的回答の数値が80%以上となりました。設問10「自分の得意なことや好きなことをがんばっている」や設問 11「授業や活動で、自分の役割をしっかり果たしている」は95%前後の高い数値となり、自分の「できる」をしっかりと発揮しながら意欲的に学習や活動に取り組んでいる姿が伺えます。今後は、得意や好きなことと共に、今までしたことがない・または少し苦手なことなど、新しいことに挑戦し「できる」ことをさらに広げ伸ばしてほしいと思います。